

目次

29	巻頭言	村山 美穂
30	連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第7回	ゴリラの目でアマゾンを歩く…山極 壽一
32	連載「氷河から熱帯雨林まで」第6回	アマゾンに「フィールドミュージアム」を作る…幸島 司郎
34	連載「生態学者が往く」第3回	北海道・知床の旅…湯本 貴和
36	連載「自然と芸術」第7回	野生動物研究センターの10年と私の10年…尾池 和夫
38	連載「大型類人猿探訪」第10回	チンパンジーとヒトの発達をはかる「ものさし」…林 美里
40	連載「サルの住む森」第10回	植物同定との戦い…松田 一希
42	連載「ウマ学ことはじめ」第10回	出産と交尾…平田 聡
44	連載「海外生息地調査」第10回	熱帯雨林の外側にすむボノボ…伊谷 原一
46	連載「環境教育実践」第10回	飼育員が造ったツリーハウス…鏡味 芳宏
48	連載「霊長類学70周年」第3回	屋久島のニホンザル研究…杉浦 秀樹
50	連載「動物園・水族館だより」第1回	百万頭のゾウの国とのつながり…田中 正之
52	空を飛ぶ鳥の視点を得る	狩野 文浩
54	書評	「分かちあう心の進化」…ユリラ・「野生動物」…木下 こづえ
56	ご寄附のお願い・イベントのご案内	

■表紙の言葉

野生のウマの写真を表紙にした。2015年10月13日、ポルトガル北部のアルガ山で調査を始めた。野生動物研究センター教授の平田聡さんと初めて訪れて魅せられた。野生のオオカミが捕食する野生のウマだ。『モンキー』なのに何でウマなの？と驚かれたかもしれない。京都大学に野生動物研究センター（略称 WRC）ができて10年が経過した。その特集号をお届けする。WRCを創った母体は霊長類研究所だ。その日本の霊長類学をおこした今西錦司（1902-1992）は、人間の社会の進化を知るために、戦前にまず蒙古でウマの調査から始めた。戦後に宮崎県都井岬で半野生のウマの調査をしているときにニホンザルに出会った。ブーメランが回帰するように初心に立ち返って野生のくらしに学びたい。ドローンや暗視カメラという装備をもって、オオカミとウマの織り成す生態系や行動について新しい研究が始まっている（撮影：平田聡、2017年6月3日）。



松沢 哲郎 まつざわ てるお

京都大学高等研究院・特別教授。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院のコーディネーター。公益財団法人日本モンキーセンター・所長。中部大学創発学術院・特別招聘教授。京都造形芸術大学文明哲学研究所・所長。

巻頭言

村山 美穂（京都大学野生動物研究センター）

私たちの野生動物研究センターは創立10周年を迎え、2018年6月11日、公開シンポジウム等の記念行事をおこなった。記念出版は本号の書評で紹介されている。

センターは2008年4月に、野生動物に関する教育研究を通じて、地球社会の調和ある共存に貢献することを目的としてスタートした。現在20以上の動物園や水族館と連携して、環境エンリッチメントやホルモンなどの研究をおこない、展示や繁殖への貢献を目指している。研究拠点として、国内には幸島観察所、屋久島観察所、チンパンジーとボノボを飼育する熊本サンクチュアリの3か所がある。海外では7拠点で、地元の研究機関と協力して研究を進めている。

教育では、理学研究科の協力講座として大学院生を迎え入れている。また「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院（PWS）」にも参画している。これまでに60名以上の学生が学び、13か国で38種もの多様な野生動物を研究してきた。30名が修士号、10名が博士号を取得し、保全の現場などで活躍している。うち2名は社会人学生として動物園で勤務しながら博士号を取得した。

最初は専任教員6名で始まり、現在は特任、兼任等あわせて36名の教員が在籍するまでに成長した。その間、引っ越しを繰り返すなど数々の試練を乗り越えてきた。センターとPWSの事務職員の献身的なご協力なしにこの発展はなかったことを、この場をかりて深謝とともに記しておきたい。まだ小さな組織だが、だからこそセミナーや海外研修を一緒に実施して、専門を超えた「野生動物学」という新しい学問を全員で創りあげてきたといえる。

この10年で、野生動物をめぐる環境は大きく変わった。ますます数を減らし絶滅が危惧される種がいる一方、増えすぎて生態系のバランスをこわしている種もいる。これまでの研究を通して大きく進歩できた部分もあるが、解決すべき課題も見えてきた。センターの強みのひとつは、多様な対象動物だ。研究の段階も草創期もあれば成熟期もある。ウマとハトがお互いの研究のヒントになるかもしれない。次の10年には、得られた情報の体系化、理論化、応用化が重要になるだろう。センターのミッションである野生動物の保全を実現するために、育ってきたポスドクや大学院生ら若手研究者らも加え、教育・研究の可能性を共に追求したい。

あらためて、皆様のこれまでのご支援に感謝を申し上げますとともに、今後も更なるご支援をお願い申し上げます。



村山 美穂
むらやま みほ

京都大学野生動物研究センター・教授（センター長）。国立環境研究所・野生動物ゲノム連携研究グループ長。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院の分担者。霊長類学会機関誌『霊長類研究』編集長。京都府環境審議会委員。長野県文化財保護審議会委員。チンパンジーやゴリラなど霊長類から、イヌワシなど鳥類まで、国内外の多様な野生動物の遺伝情報を保全に役立てる研究に取り組んでいる。ガーナでのフィールドワークもおこなう。